

冬の水虫

皮膚科

冬

場に多い皮膚のトラブルといえば、皮膚の「かさかさ」と答える方が多いと思います。もちろん、これは気温が低く乾燥したからっ風が容赦なく肌から水分を奪っていくからに他なりません。

しかし、一口に「かさかさ」といっても、皮膚科の病気から考えれば、いくつかのものに分けられます。

皆さんがよく耳にするアトピー性皮膚炎、加齢とともに皮脂分泌が減るために起こる皮脂欠乏性皮膚炎、皮膚の一部が厚みを増し表面が銀色がかったうろこ状のかさかさで覆われる尋常性乾癬など様々な疾患があります。これらは痒みを伴うことが多いため、殆どの方は皮膚科に受診されます。

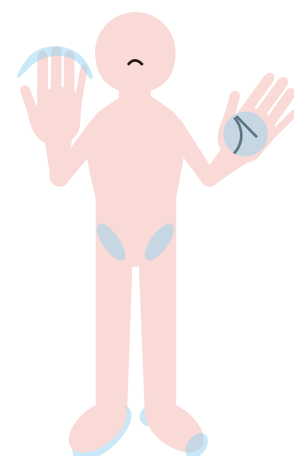
それに対して、痒みのあまりない「かさかさ」もあります。足のかかとの「かさかさ」です。これはあまり知られていませんが、足底やかかところが白く粉をふいたようになる角化型の白癬すなわち水虫であることが多く、実は治療すればよくなります。

たしかに冬場に空気が乾燥するためにかかとの皮膚が厚みを増し、亀裂が入って痛むことがよくありますが、調べてみると白癬菌が見つかり、水虫の薬で治ってしまう方も少なくありません。

最近では爪の水虫はずいぶん有名になって、自ら治そうと皮膚科を訪れる方が増えていますが、かかとのほうは「まさか水虫とは思わなかった」という方がまだまだ多いようです。

特にそのような方は未治療のまま長年過ごされるため、爪白癬に移行することが多いので、その前にぜひ治療していただきたいと思います。心配な方は白癬菌の検査をお受けになればその場ですぐわかりますので皮膚科の診察をぜひ一度お受けください。

冬の間にはしっかりと治療すれば、長年の付き合いだった水虫も治せるでしょう。



水虫は様々な部位にできます。

梶山 理嘉



皮膚科・小児科
多摩ガーデンクリニック
東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

予約・お問い合わせ
042-357-3671

※皮膚科と小児科では診療時間及び受付時間が異なります。詳しくは受付・電話にてご確認ください。